

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	芦屋市	大学名	
派遣日	令和 6 年 1 月 24 日 ( 水 曜日) 15:15~16:45 15:15~15:20 開会 15:20~16:35 講義 (75分) 16:35~16:45 質疑応答 16:45 閉会 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや 2階 大会議室				
アドバイザー氏名	滑川 恵理子 (京都女子大学国際交流センター 助教)				
相談者	芦屋市教育委員会 学校支援課				
相談内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・芦屋市日本語指導者養成研修 (全 8 回) のうちの『教科と日本語の統合学習の実践や具体例』についての講義。</li><li>・理論編ではなく、現場の教員が実践できる内容。</li><li>・研修の対象は、管理職、教員、支援者、地域ボランティア。</li><li>・日本語習得に時間がかかった子ども (母語確立前の幼少期来日) の支援事例</li><li>・指導例の中で登場するリライト教材などの紹介。</li></ul>				
派遣者からの指導助言内容	<p>○読み書きを習得するまでに時間がかかった子どもの支援事例について、困りごとの背景として考えられること</p> <p>①言語の複雑さ 発音は年齢が低い方が有利であるが、まとまりのある文章が書けるかどうかや抽象的な語彙の理解等も注視する必要がある。小さい子どもは誰でも自然に新しい言語を習得するとは言えない。</p> <p>②学習言語の発達には時間がかかる 言語能力の 4 領域 (カミンズの 4 象限モデル)、生活言語は 2 年で習得、学習言語は、5 年~7 年要する。現地生まれ、幼少期来日の場合は 10 年を要することもある。</p> <p>③日常生活と教科学習との隔たり 日常生活は、親しい関係にある人たちとの対面による具体的かつ短いやりとりであり、教科学習は、一般的な日本人の子どもがわかる日本語で小 1 から始まる。教科学習では、抽象的概念や書き言葉が必須。→「子どもが自然に新しい言語を習得できる」と言い切れない。</p> <p>④文字習得に始まるリテラシー (読み書き能力) の発達 「読む」とときには、視覚符号化だけではなく、音韻符号化も行ってから意味処理が進む。音韻符号化=音声に関する識別能力は幼児期に母語 (周囲で使われている言語) によって形成される。つまり、就学前に音声言語のシャワーをどれほど浴びたか (言</p>				

(様式3)

	<p>葉遊びや絵本の読み聞かせ)が読み書き能力の基礎となる。この基礎を積む時期の環境によって、就学後のリテラシー発達に影響を及ぼすこともあり得る。</p> <p>○小学校入学から約2年半の日本語指導の概要について</p> <p>①意味のある読み書き活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・毎回の日本語指導の学習項目：始まる時に一緒に全部読み上げる</li><li>・月間行事予定表、遠足のしおりなど子どもにとって必須な情報を取り入れる。</li><li>・楽しいこと、好きなことを書く活動に取り入れる。</li></ul> <p>②教科学習の開始</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国語の教材文を使って、「読み聞かせ、対話、書き留める(話し言葉を書き言葉に)、リライト文」を組み合わせることで、話し言葉が書き言葉へと発展していく過程を体験させながら、内容理解と日本語学習を進める。</li></ul>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・受講者は具体的な実践例をもとに早速、対象児童生徒への指導時に取り入れる。次回の研修で実践交流の場を持つ。</li><li>・日本語指導が必要な児童生徒への支援については、母語と日本語の両言語による支援が必要であり、保護者の協力が重要である。言語習得には個別に丁寧に時間をかける。保護者をどう巻き込んでいくか関係機関と協力しながら支援を進める。</li><li>・小学校低学年の指導事例が中心だったが、小学校高学年や中学生の実践例についての話も聞きたいという声があった。</li></ul>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。